

第1章 はじめに

- 1.1 調査研究の趣旨・目的
- 1.2 文献資料調査の概要
- 1.3 本報告書の構成

1.1 調査研究の趣旨・目的

本調査研究は、文部科学省スポーツ・青少年局青少年課による「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」事業の委託調査研究（お茶の水女子大学文教育学部 坂元章研究室受託）として実施された。同事業では、昨今の青少年を取り巻くメディア上の有害情報対策を推進する観点から、地域における推進体制を整備し、地域で大人たちが青少年を有害環境から守る取り組みや青少年やその保護者を対象にインターネット上におけるコミュニケーション・マナーやルール、情報発信の責任等について学ぶ機会の提供などを行うモデル事業を別途実施しており、本調査研究は、その事業の推進を目的とした幅広い事例研究と実践的かつ有効なデータ／資料の収集・提供を大きな目的としている。

本調査研究は、坂元章を代表者とする研究チームが文部科学省による公募に応募し、採択され実行したものであり、メディアが青少年に及ぼす影響を検討した研究論文の文献資料調査を行うとともに、北欧とくにスウェーデンとフィンランドにおける「青少年とメディア」の問題に対する取り組み事例について現地調査を行った。

本報告書は、メディアが青少年に及ぼす影響を検討した研究論文の文献資料調査の結果を報告するものである。青少年有害環境対策の一環としてメディアの問題に取り組むとき、実際にその問題の存在がどれほど確かであるかは重要である。本報告書は、それに関する実証研究の成果を網羅的に紹介し、今後のメディア問題に対する取り組みに資することを目的としている。

1.2 文献資料調査の概要

1.2.1 文献資料調査の調査内容および調査方法

本調査研究では、メディアが青少年に及ぼす影響について、①自殺、②メディア依存、③性、④アルコールとタバコ、⑤やせ／摂食障害、⑥肥満、⑦電磁波、⑧暴力、⑨社会性、⑩偏見、⑪ジェンダー、⑫認知能力、⑬脳活動の13のテーマに基づき、国内外の文献資料調査を行った。

主に国内外の学術データベースを活用し、心理学、生理学、社会学、医学、教育学等の研究論文・文献資料を検索・収集し、これまでの研究動向を調査するとともに、その内容について分析・検討した。

各テーマの調査実施状況及び検討事項等については、研究代表者（坂元章）の主催する「文献資料調査作業部会」で報告・議論・検討し、適宜「研究協力者会議」の助言・指導を得ながら調査を進めていった（詳細は1.2.2、1.2.3を参照）。

1.2.2 文献資料調査の研究体制

本調査研究では、文献資料調査の企画・遂行を「研究協力者会議」「文献資料調査作業部会」の2班に分けて実施した。文献資料調査作業部会では、主に国内外の研究論文・文献資料の検索・収集・検討・報告を行い、研究協力者会議では、主に本調査全体の企画・調整ならびに作業部会への助言・研究支援を行った。

各班の構成メンバーは以下のとおりである。

表1 研究協力者会議ならびに文献資料調査作業部会の氏名及び所属等

【研究協力者会議】 (あいうえお順：◎は代表者)

氏名	所属/職名
猪股 富美子	お茶の水女子大学文教育学部研究員
駒谷 真美	昭和女子大学短期大学部講師
◎坂元 章	お茶の水女子大学文教育学部教授
佐々木 輝美	国際基督教大学教養学部教授
鈴木 佳苗	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科助教授
内藤 まゆみ	高崎経済大学経済学部講師
向田 久美子	清泉女学院大学人間学部助教授

※所属/職名は平成19年3月現在

【文献資料調査作業部会】 (あいうえお順：◎は代表者)

氏名	所属/職名
赤坂 瑠以	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
猪股 富美子	お茶の水女子大学文教育学部研究員
瓜生 恭子	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
王 戈	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
近江 玲	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
◎坂元 章	お茶の水女子大学文教育学部教授
佐々木 輝美	国際基督教大学教養学部教授
田島 祥	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
内藤 まゆみ	高崎経済大学経済学部講師
堀内 由樹子	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
松尾 由美	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

※所属/職名は平成19年3月現在

1.2.3 文献資料調査の進行状況

本調査研究では、研究協力者会議および作業部会（表1）により、平成18年7月20日から平成19年3月10日までの間に、計16回の会議（研究協力者会議7回、作業部会会議9回、うち各1回は合同会議）を実施した（表2）。文献資料の検索・収集もこの期間中に行われた。

期間中の会議実施状況は以下のとおりである。

表2 研究協力者会議ならびに文献資料調査作業部会の実施状況等

（●印は作業部会、○印は同研究協力者会議）

期 日	会議名
平成18年7月21日	○第1回研究協力者会議
同 7月28日	●第1回文献資料調査作業部会
同 8月11日	●第2回文献資料調査作業部会
同 8月23日	○第2回研究協力者会議
同 8月28日	●第3回文献資料調査作業部会
同 9月12日	●第4回文献資料調査作業部会
同 9月14日	○第3回研究協力者会議
同 10月12日	○第4回研究協力者会議
同 10月17日	●第5回文献資料調査作業部会
同 10月20日	●第6回文献資料調査作業部会
同 11月10日	●第7回文献資料調査作業部会
同 11月14日	●第8回文献資料調査作業部会
同 11月17日	○第5回研究協力者会議
同 12月8日	●第9回文献資料調査作業部会 ※合同会議 ○第6回研究協力者会議
平成19年3月5日	○第7回研究協力者会議

1.3 本報告書の構成

本報告書の構成は以下のとおりである。

第1章においては、本調査研究の趣旨・目的と文献資料調査の概要および本報告書の構成について報告する。

第2章においては、メディアの影響研究の主な方法論についてその現状と特徴をまとめている。

第3～15章においては、メディアが青少年に及ぼす影響に関する文献資料調査の調査結果として、以下の13テーマに基づき、これまでの調査研究結果や知見をレビューする。

※（ ）内は主たる執筆担当者

第3章 自殺（内藤 まゆみ）

第4章 メディア依存（松尾 由美）

- 第 5 章 性意識、性行動、性暴力（瓜生 恭子）
- 第 6 章 アルコールとタバコ（第 1 節は王 戈、第 2 節とドラッグは堀内 由樹子）
- 第 7 章 やせ願望と摂食障害（王 戈）
- 第 8 章 肥満（赤坂 瑠以）
- 第 9 章 電磁波（電磁界）（猪股 富美子）
- 第 10 章 暴力（第 1 節は佐々木 輝美、第 2～5 節とコラムは堀内 由樹子）
- 第 11 章 社会性（第 1～2、4～6 節は赤坂 瑠以、第 3 節は田島 祥）
- 第 12 章 少数者に対する偏見とステレオタイプ（松尾 由美）
- 第 13 章 ジェンダーに関するステレオタイプ（王 戈）
- 第 14 章 認知能力（近江 玲）
- 第 15 章 脳活動（田島 祥）

第 16 章では、第 3～15 章のまとめとして、これまでのメディア影響研究の概観とともに今後の課題について報告する。